



リステラス星圏史略
古資料ファイル 5-X-?
「楠木綾子の物語」

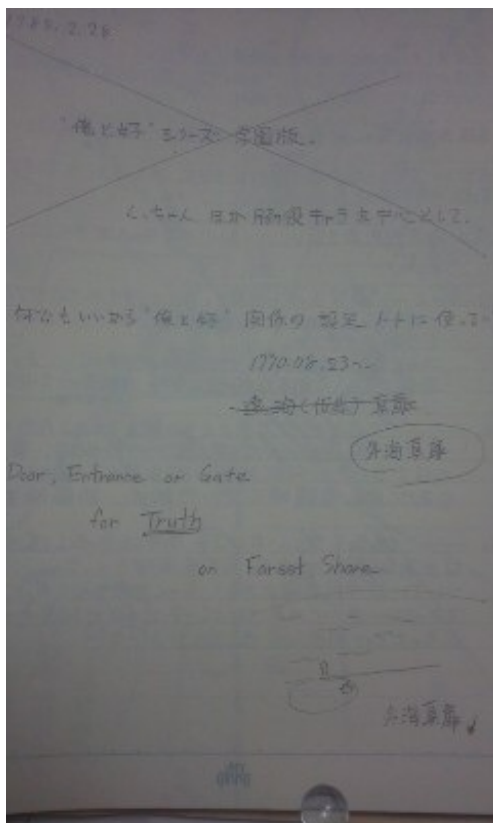
(発掘作業中)

霧樹里守 is 土岐真扉
as
恒沙真谷人 / 外海真扉

(旧ノート表紙) (1985.02.25.)

(仮題: くっちゃんの日) (高校3年?)

2016年9月21日 リステラス星圏史略 (創作)



『1985.2.28. "俺と好" シリーズ学園版。 くっちゃん、ほか脇役キャラを中心として。』

[『1985.2.28. "俺と好" シリーズ学園版。 くっちゃん、ほか脇役キャラを中心として。』](#)

2006年8月1日 [連載 \(2周目・善野物語ほか\)](#) [コメント \(2\)](#)

1985. 2. 28.

"俺と好" シリーズ学園版。

くっちゃん、ほか脇役キャラを中心として。

何でもいいから "俺と好" 関係の設定ノートに使っている。

1990. 03. 23～
遠海（仮称）真扉
○外海真扉

Door, Entrance or Gate
for Truth

on Fasest Shore

外海真扉☆

◎ 本編との主要な相違点。

○ 近未来という設定をあまり色濃く出さない。

会話の片端などに、ちょっと「あれっ？」と思うような

言葉がはさまってもいいかな、という程度。ほぼ現代。

- 会田・生徒会長と影番・杉谷くんの親密なつながりはなし。
- 会田さん3年生、清、ゆかり姫など2年生、ユミ、まりくつコンビ1年生。高校4年制度はたぶん無し。
- 清クンは主役に出さない。くっちゃん、ユミちゃんを中心に。
- ☆ くっちゃん.....奨学生の下宿（ひとり）暮らし。まりにつきあつてのソフト部補欠マネージャー。気がつくと図書館にいる"ヌシ"というイメージと、どう折半させるか。
ユミと親しくなるまでは、やや偏向して暗い。
画家志向。O高へは越境入学、片田舎F県、K県の境、の24時間（よろずや）スーパーの子。
- ☆ ユミ.....かなりヤクザな兄上とその親友である片恋のBFをもつ、サバサバした性格の、かなり変人風フツウの女の子。資産家令嬢のはずなのだが何故か親の顔を覚える暇もなく家事一切にあけくれる。看護婦志望の行動派。新体操部所属。
- ☆ まりィ.....健気で愛しい女のコ♪ クッキーとケーキは焼けるけど魚料理は出来ないという手合い。前恋愛段階でくっちゃんにべったりはりついている。単純な憧れからくっちゃんを巻きぞえにソフト部補欠マネージャーをつとめる。コンピューターと手芸に特異な才能あり。
くっちゃんとの関係は.....なんなんだろう？
- ☆ 清クン.....ユミちゃんの片思いのBF。サボリ癖のある堅気のO高生。
- ☆ 好 ユミの兄。O市の影番。硬派。
チョコレートケーキを箸と番茶で（いやいや）喰う。
- ☆ 高橋博文（ひろふみ）.....清クンの中学時代の親友。
私立O高の奨学金を受けようと無茶をして体をこわした、暗い過去つき。清風高生。
高橋豆腐店の息子で、新聞記者志向。

ユミちゃんのBFのひとり。

☆ 高橋文江.....博文の姉、評判の豆腐屋小町。以前、酔漢にからまれたところを杉谷好一に助けられたことがある。

☆ 柴田晴樹.....通称「狼」（お一かみ）、別名ひょーきんウルフ。この人、出てくんのかなあ。硬派（？）暴走族 "009" のヘッド。杉谷好一の子分。

(※かなり精密な〇野市街地図が作製されてるのですが.....以下略。

今現在、アタマの中にある地勢図とは、けっこう違っちゃってる☆)



ひみつ日記

.....「暴走族」.....って.....☆

もはや死語、でしょうか.....?? (^◇^;)”

2006年8月3日 [連載 \(2周目・善野物語ほか\)](#)

◎ ストーリー・プロット 仮定として。

1. くっちゃんが無理な生活をしている。
2. ユミちゃんの高橋くんへの捜査依頼によって事がおこりはじめる。
(くユミちゃん催眠術?)
3. 高橋くんへの日常生活。姉上文江さんの片恋。
4. ユミちゃんの日常生活。チョコレートケーキをはしで喰う
好くん。
5. 清クンがくっちゃん相手にちょっかいかける。先輩ぶって。
6. 高橋くんとデートの清。
- 7.

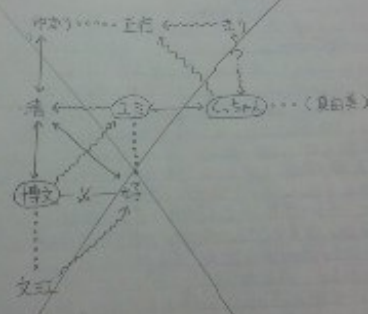
(綾子)

- (起) 無茶な生活
(承) ユミのちょっかい
(転) 原因の判明
(結) ユミとの友情

◎ [このストーリー](#)における人物相関図♪ (※省略※)

らめストーリーにふつに人物関係図

- 直接関係
- ↔ 恋愛関係
- 母親関係



(仮題：くっちゃんの日) (高校3年?)

(仮題：くっちゃんの日) (高校3年?)

2016年9月21日 リステラス星圏史略 (創作)

(仮題：くっちゃんの日)

by 遠野真谷人

奨学金を受けてる以上、成績は、落とせない。

だけど本が読みたい。絵が描きたい。

おまけにまりに泣きつかれ、ソフト部、なんてものにまで入っちまって... ああ、もう！

時計をとめて、飛び起きて。

朝食取る間も勿体ない。でも抜くとまた貧血で、倒れるブザマも嫌だから。

パンにバタ塗ってジャム塗って。

インスタントのミルクティー。

シャケ缶つついてレタスむしって、くしも入れずに髪ひっくくる。

弁当、つめた。

カバン、そろった。

「行ってきや～す！」

なんて叫んで鍵かけて。

自分の映った鏡にむかって、言ってみるのも哀しいね。

遠いんだよな、これが。

ロードワークで二十分。

七時五分にまりはいる。

「くっちゃん、おはよ♪」

「モーニン！」

笑って、まりは自転車だ。

あたしが買わせて練習させて、車輪つきとは思えぬくらいにのたのたと。

ジョギング速度にちょうどいい。

「それでね、あのね、」

「へいへい」

ピンクのリボンでまりは云う。髪はとかしてリップをつけて、死んだ義妹（いもうと）にそっくりな。

七時十五分、学校着。

「ほらほら、さっさと着がえる。」

「はあい♪」

ジャージ着て、マラソンしながら朝練に来るって奴は、結構多いけどもさ。

そのジャージで布団から抜け出て来るのは、あたしくらいのもんだろうな。

「...九百九十九。...せ〜ん...っ！」

「千本ノック終了ー!!」

「ジャスト八時十五分。あがれーっ！」

百本づつの五交替。"マネージャー"は、肉体労働だ。

わが校女子の花形運動部、ソフトに、せがまれて入ったのは二ヶ月前。
球ひろいと会計・買い出し係が専門のまりの、云わば補助だ。

二・三年のマネはその逆だと思ってるらしいけど。

「球数確認！」

「バット、ありましたっ！」

「御苦労様。マネージャーも着替え急いで。」

「はあいっ！」

うわ。始業まで、あと十分！

体育倉庫に走りこみ、部室のシャワーに駆けこんで。

「ぎええ、あと一分でボイラー切れる！」

六月でこの汗だけ、おい。

各部一斉の全開で出の悪い湯滴の下に飛び込んで、それでもひとつだけソフト部に感謝しているよ。

風呂代。

ばたばたばたばた、どた☆

「まり、大丈夫？」

「あ〜んっっっ」

「鏡なぞ見ながら走るから☆ ほれ速く」

「だって髪が。上手く、」

「あとあと。教室でやりな」

「くっちゃんったらそれでも女の子なのォ？」

ぬかせ。髪にブラシ入れる暇があったらグインの続きを読むわい。

ばたどたどた。がらり。ばしんっ！

机とロッカーに荷物を放りこむ。

チャイム鳴る。カランコロロン。

三十秒後、担任登場。

「きり〜つ、礼！」

がたがた鳴る机と椅子。

「今朝もまたずいぶんと賑やかでしたね楠木さん。もっと特待生としての自覚を持って貰いたい
ものですが」

「はい。すみません。先生。」

ならその多忙な奨学生に、押しつけないでよね、雑用。

級長なんていう。

出席よばれる合間に単語。片手で教科書ひきだして。

一限目、R（リーダー）。

「やっていますねエ相変わらず」

十五分休み世界史との場外乱闘に、声をかけてきたのは隣のクラスのコ。

「悪い？ ゆみっぺ。あたしゃ暇がなくてね」

...声のとがった。う～、まずい。

何故だか今日は、イライラしているね。あたし。

「一年のうちからそんなに頑張るの、あなたくらいよねー。」

...気にしない娘なので有難い。

(未完)

(未来編)

(未来編)

「ふろむ・だいありい」 （「俺と好」番外編 1）

も、怒った。

「毎日退屈しておいでのようなですね。」

「あなたね、人にまとまった話しようってんなら、まず座るとか、ちょっといいですかって尋くとか、したらどうなんですか？」

話しかけてきたのはアルヤさん。あたしゃ目一杯腹たてて、そんでもって今は落ちこんでんだから、も、れーぎだのぎょーぎだの知りませんもんね。

あ、日記のつもりだって一の日に日付け忘れた。あたしの腕時計の限りでは7月23日。こっちでどーなってんのか聞いたけど覚えてないけど、とにかく13日も経ちまったのだ13日も！

あたし、こと楠木綾子の心情たるや推して知るべし、である。

「おお。これは失礼しました。」

アルヤ氏はいとも率直に詫びて、腰を降ろす。

「少々お話ししたい事があるのですが、よろしいですか？」

...つくづくひょーきんな兄ちゃんである。

10も歳下のガキにナめられて、いとも大人しく従おうというのだ。

「退屈してそーだてんのが解ってるんなら、ヒマモ持て余してるのも解ってよさそーなものじゃありませんか。」

大体この男が悪いのだこの男が！ あたしらのお守りにミステリアのアホなぞよこしおって、このっボケッ。アホッ。スカタンッ。融通きかざるの諸悪の根源っ!!...

(参照したければ資料)

<http://85358.diarynote.jp/201612301606298031/>

[【没原稿】 「ふろむ・だいありい」 \(「俺と好」番外編 1\)](#)

2016年12月30日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント \(2\)](#)

くっちゃん物語 「も、怒った。」

（「俺と好」番外編） （by 恒沙真谷人）

第1話。

危険...

あやこは夢をみていた。

真っ暗な中を誰かが走っていた。

誰か...それは数人であるらしい。

暗闇のなか、手に手をとって、彼らは逃げているのだった。

走っている。ひたすらに。

その背後、はるか遠くで雷鳴のような音と光がする。

危ない！

...あやこは叫んでやりたいのだが声が出ない。危ない。

一瞬、あたりは真の闇に包まれて、完全な静寂。

音も光も無に帰するそれをあやこは爆発だと感じた。

再び薄明のなかにおぼろな光景の断片が浮きあがる。

奈辺かから千切れて飛んできた栗色のおさげ（三つ編み）の片方。

生々しく唐突な赤い色。

浅黒い、男にしては華奢に見える、投げ出された腕...

「わあ！」

あやこは跳ね起きて灯のスイッチをひねった。

「わあ！ や、やめてくれええ!!」

こここのところこんな風なのが毎晩だ。

あやこは極端に寝不足に弱いとゆーのに...眠られない。

頭が休んでくれないのだ。

「...どーひらの... また、夢？ くっひゃん... 」

まりが向かいのベッドでもごもご。

眩しいのか...

あたしは灯りを消した。

「なんでもないよ。お休み。」

「ふあ... 」

夜光の壁時計を見るとまだお話にならないほど早い時刻ではあった。早くはあったけれど...

(起きよ。)

まりの寝静まるのを確認して、あやこは手探りで服を着ける。

「、おはようございます。お早いですね、ミス・アヤコ（アヤコ殿）。」

「あのね。それより早く起き出して、一仕事まで片しちゃった人にそう云われたって、イヤミにしか聞こえないんですがね。」

城中の、執務区域に近い一画には侍官や衛士たちの利用する休憩所兼軽食堂みたいなホールがある。

「大体なんだからあなたがな所にいつも居るんです。アルヤさん監務官なんですよ、そこら辺の人よりエライんですよ。」

寝不足というより不眠症。機嫌の良からう筈もない。まして、あかつきどき（暁時）から涼しい顔して仕事なぞ出来る奴を人間とは思えない。

アルヤは穏やかに微笑んで答えなかった。

「紅茶はいかがですか？ それともコーヒーを？」

「あたしゃコーヒーは飲めないんですってば。」

小さなカウンターは一応セルフ・サービスって事になっている。

ハツ当たりついでに好きな紅茶もつっぱねちまおう。わけ（理由）もなくあやこがそうしたくなった時には、他の人よりは偉い筈の2等監務官、慣れた手つきでダージリンを淹れてしまっていた。

「どうぞ。」

目の前に出されたカップを引っくりかえせるほどにはあやこにしみこんだミノウツクシサ（躑躅）というのも弱いものじゃない。なんにも入れないお茶は少しなつかしくてかなしい香り。

ふん。

運動不足。だと、あやこ自身は不眠症の原因を決めつけていた。

実際、退屈なのだ、毎日。

既にあれから1週間以上経ってしまっている。

あれから... そう、見るともなしに部屋の窓から、6台の特装クォクが出掛けて行くのを見送った日。

後悔したりするのはあやこの性には逢わない。だからついて行けば良かったとか、考えているわけじゃなかった。

まりは結構楽しそうにしているし、何よりも安全・快適な生活。

...ただ。

快適すぎる、てのがこの場合は問題なのだった。

「仕事下さい！」

「.....え？」

欄外に

ブランド侯レナード

ネマトーダ ...辞書 P.800

てメモがある... (^ ^ ;)

忘れてたぞ！> ブランド侯爵!!

...はて... (^ ^ ;) ...「ねまとーだ」は、何故ここに...???

<http://www.gardening-designs.com/nematode.html>

>小の虫こぶをつくり、根を腐らせたり葉を枯らせたりします。

...あ”～「諜報組織」の名前だっけ...??

(参照したければ資料)

<http://85358.diarynote.jp/201612301626159103/>

[【没原稿】 くっちゃん物語 「も、怒った。」 \(「俺と好」番外編\) \(by 恒沙真谷人\)](#)

2016年12月30日 [ヒロシマ+ナガサキ<フクシマ=【地球】 !!](#)

リステラス星圏史略
古資料ファイル
5-X-?
「楠木綾子の物語」

<http://p.booklog.jp/book/109806>

: 著者 :

霧樹里守 is 土岐真扉

as

恒沙真谷人 / 外海真扉

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/109806>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/109806>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ